

エス・エヌ・ケー・テクノ東原氏が「緑十字賞」を受賞

緑十字賞は、中央労働災害防止協会（中災防）が主催し、長年にわたり産業安全や労働衛生の推進向上に尽くし、顕著な功績が認められる個人等に贈られます。

令和3年度の表彰において、エス・エヌ・ケー・テクノ（株）北勢工場課長の東原忠烈氏が、この賞を（産業安全及び労働衛生部門）を受賞され、同社様から寄稿をいただきましたので紹介します。

東原忠烈課長は、北勢工場の安全衛生推進者として徹底した安全管理を主担し、当社が目指す「廃棄物の安心・安全・確実な処理で地域社会や顧客のニーズ・信頼に応えられる事業実施」を牽引してまいりました。

このことは、社会経済活動で生じる環境負荷の低減への貢献者でもあります。

氏は、知る人ぞ知る鮎釣り名人で、全日本アユ釣り選手権大会に3年連続出場し、3位の実績があります。鮎釣りを通じて、美しい川を守りたいという環境保全意識の高さが、日々の業務遂行の源泉と推察されます。

今後とも、この栄誉ある受賞に恥じない労働安全衛生の推進活動に取り組むとともに、「廃棄物は大切な資源」であることを、全部門・全従業員で共有し、企業活動を展開します。



第1回安全衛生研修会を開催 ~津市で~

令和3年11月26日（金）に三重県勤労者福祉会館（津市）において第1回安全衛生研修会を開催し、27名の方にご参加をいただきました。

今回は、（公社）全国産業資源循環連合会の講師で三重中央開発（株）安全課長の大田修平様に講師をお願いし、①「作成支援ツールを活用した労働安全規定等の作成について」と、②「労働安全に係る新たな規制について」、の2つのテーマで、講演をお願いしました。

労働安全衛生規程等の作成につきましては、事業規模の大小にかかわらず、作業者の安全確保等のために規定の整備が求められており、また、必要な対策を適切に実施していくためにも重要なものとされています。今回は、全産連のホームページに掲載されているツールを用いて労働安全衛生規定のひな型をつくったうえで、自社の状況に合わせて完成させていくプロセスについて具体的にご説明をいただきました。

また、労働安全に係る新たな規制に関しては、①墜落制止用器具（安全帯）、②溶接ヒュームのばく露防止、③化学物質リスクアセスメント、④エイジフレンドリー 等について、具体的に説明をいただきました。これらの新たな規制については、資機材の調達や資格の取得など一定の準備を要する事項もあり、時期を得た情報をいただきました。

このほか、大田様の実体験を基にして、実際の現場の状況を見ながら労働災害のリスクを皆で考えるレクチャーなどもいただき、実務的な内容に踏み込んだ研修会となりました。

今後、当協会では、令和4年3月頃に第2回の研修会の開催を予定しておりますので、改めてご案内をいたしますから、会員の皆さまのご参加をお待ちしております。



安全衛生研修会の風景

食の循環と環境保全型農業の構築へ向けた取組み

株式会社大栄工業

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



現在、地球上では地球温暖化による環境問題やエネルギー問題、食料問題など解決しなければならない多くの問題に直面しています。これらの問題解決には環境や経済・地域社会の発展、人々の生活の向上など、継続的に社会への貢献を行うことが企業が果たすべき社会的責任であると考えます。

当社は、食品廃棄物など有機循環資源をバイオガス発電による再生エネルギーへの変換や、農業に欠かせない肥料の製造など事業活動を通じてあらゆるステークホルダーとの連携を深め循環型社会の実現を目指しSDGSの達成に貢献します。



当社は平成15年に食品廃棄物を利用した堆肥化リサイクルを開始し、製造した堆肥は培用土など園芸用土の原料となり全国のホームセンターなどで販売しています。また堆肥化とは別に食品廃棄物の新たな利用方法を確立するため、平成30年に三重県初となる再生可能エネルギー施設「バイオガスパワー・プラント伊賀」を稼働しました。バイオガス発電の規模は日量60tの食品廃棄物を受け入れ年間約400万kwh発電し自家消費電力を差し引いた電力を売電しています。

そして現在持続可能な社会を実現する当社独自の取組みとして、堆肥とバイオガス発電施設から副次的に得られるメタン発酵消化液（液肥）を有機肥料として利用し、化学肥料と農薬の使用量を削減した環境保全型農業の構築に向けたお米作りに挑戦しています。この取組は三重県農業研究所様と伊賀市御代地区の農業生産者様のご理解を得て共同研究を行っているもので、消化液を利用した苗の栽培から化学肥料の代替品として堆肥と消化液を利用した米の栽培技術の確立を研究テーマにこの2年間「みえのゆめ」という品種を栽培してきました。今年の収穫量は反あたり11俵収穫でき、比較栽培した一般慣行栽培米と同じ収穫量が得られたので大変満足できる結果となりました。収穫したお米は、地元スーパー店頭にて販売しています。来年は栽培面積を1haとし、品種も「みえのゆめ」に加え「コシヒカリ」にもチャレンジしていきます。



有機堆肥散布状況

液肥流し込み状況

生育状況

また、一連の中で大栄工業は、日本ハム食品株式会社様と2021年9月10日付で、農林水産大臣、環境大臣による食品リサイクル法に基づく「再生利用事業計画（食品リサイクル・ループ）」の認定を取得しました。

認定を取得した「食品リサイクル・ループ」は三重県内にある日本ハム食品 桑名プラントより食品を製造する際に生じた調理残さを大栄工業リサイクル工場で堆肥化を行い、その堆肥を有機肥料として利用し地元農家が栽培したお米を日本ハム食品桑名プラントの社員食堂で利用して頂くものです。

「食品関連事業者」「再生利用事業者」「農業生産者」の三者が食の循環システムを構築することで、食べ物の無駄をなくし、化学肥料や農薬を削減した環境保全型農業に取組み持続可能な社会の実現を目指していきます。



大栄工業グループ (dkgr.co.jp)